

令和 8 年熊本地震に係る
第 8 回政府非常災害現地対策本部会議
第 15 回災害対策本部会議 議事録

日時：令和 8 年 8 月 5 日（水） 16：00～

会場：県庁防災センター 2 階 災害対策本部会議室

1 開会

2 議事

（１）今後の気象の見通し

別紙「気象台資料」により説明（熊本地方気象台）

（２）県からの報告

別紙「各部説明資料」により説明（各部長等）

（３）国からの報告

①総務省

被災市町村への応援職員派遣について、熊本市で 48 名、氷川町で 11 名増加。新たな対口支援先にも今後職員を派遣する予定である。また、被災者向けの生活支援情報をまとめたガイドブックを作成・公表し、紙での配布も開始。さらに、8 月 6 日 13 時から災害専用フリーダイヤル「0120-091-110」を開設し、土日も含めて相談を受け付けていく。

②経済産業省

エネルギーインフラについて、電力は低圧線・引込線に起因する停電への対応を継続している。ガソリンスタンドは、八代・宇城・氷川町の 73 か所中 65 か所が営業しており、販売制限も解消。また、対象地域のコンビニは 8 割以上が営業を再開し、物資供給も順調に進んでいる。避難所では業務用冷蔵庫等の設置を 9 か所で進めており、中小企業の被害額調査については、来週から県や商工会などと連携して本格的にヒアリングを進める方針。

③国土交通省

TEC-FORCE の活動が延べ 400 人を超え、給水支援に関する調査を引き続き進めている。また、球磨川の緊急災害復旧工事について、八代市古麓地区の 1 か所で対策が完了し、残る箇所も早期復旧を進める方針。さらに、台風接近に備え、土のう袋やブルーシートの配布を進めており、追加分も手配して対応していく。

④自衛隊

8 月 5 日に病院 8 か所を含む 36 か所で給水支援を実施。また、台風接近に備え、12 市町の高齢者・医療施設など 88 か所へペットボトルを輸送する支援を 3 日間行う予定。入浴支援については、6 か所で実施し、前日は約 1,100 名が利用したが、台風

による強風が予想される場合は、運営時間の短縮や一時中止の可能性がある。さらに、海上自衛隊の入浴支援や民間船舶「はくおう」による入浴・医療支援についても、台風 13 号の影響を避けるため一時中断し、再開は 10 日以降の見込み。

(4) 関係機関からの報告

①日本赤十字社

避難所を中心に被災者支援を行っている。今後は避難生活の長期化を見据え、食料など命に関わる支援に加えて、避難所の環境改善、医療へのアクセス、生活物資を被災者自身が入手できるようにするための支援にも取り組んでいく。

②緊急消防援助隊

被災地での救急隊による活動支援に加え、DMAT と連携した転院搬送、避難所や車中泊をしている方々への熱中症予防に関する普及啓発を実施。

3 松尾教授（東京通信大学）からのコメント

地震後に台風や大雨が重なる「複合災害への備え」の重要性について説明。特に、地震で地盤や河川施設などが影響を受けている中で台風が接近すると、避難所自体が危険になる可能性もあるため、被災者を安全な場所へ移す対応を早めに考えておく必要があると指摘。また、台風接近の 5 日前、4 日前、3 日前といった段階ごとに、誰が何を行うかをあらかじめ整理する「タイムライン防災」に基づき、国・県・市町村は連携して県民の命を守る行動を進めてほしい。

4 災害対策本部長（木村知事）からのコメント

別紙「本部長（知事）コメント」のとおり

5 現地対策本部長（津島副大臣）からのコメント

避難所環境の改善に向けて、パーティションや段ボールベッドの配備、避難所運営ノウハウの提供を進める。その際、ニーズに配慮して布団や段ボールベッドを設置している。また、八代市の一部避難所で食料不足があったため、緊急的にパン 6,000 食を支援。地震で地盤が緩んでいることから土砂災害への警戒を呼びかけるとともに、冷房の使用や水分補給など熱中症対策をお願いする。

農水省のプッシュ型支援により、青森県からリンゴジュース 2,000 缶を届ける予定。明日や未来への希望、そして、生活再建への希望もっていただくため、関係機関がワンチームで支援を続けていく。